



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第10回例会(9月14日)
平成24年9月21日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭
幹 事 佐藤 重昭
会 報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... R会長 田中作次



ゲスト卓話

「生き生き歌って楽しい人生」

民謡歌手
漆原 栄美子 様

●スピーカー紹介

岩手県矢巾町出身。15歳で井上一子さんに師事し、民謡の道を歩み始める。

数々の民謡コンクールで優秀な成績をおさめ、平成3年には第14回日本民謡大賞日本一を受賞。その後、民謡だけでなく歌謡曲デビューも果たし、名だたる演歌歌手の皆さんとも共演。平成19年にはIBCラジオで「漆原栄美子歌ころ花ころ」という番組を持ち3年半にわたって放送した。昨年の震災以降、釜石市、山田町などで被災地復興支援30回公演の最中。自らの公演のほか、子供さんたちへの民謡指導にも情熱を傾けている。また、日本民謡協会をはじめ多くの民謡関係の役職を務めている。

.....
13歳から民謡を歌い始めて、59歳になりました。小学校3年生の頃から個人レッスンで先生について歌を習い始め、6年生のとき、学校主催の岩手県下独唱コンクールで岩手県の最優秀賞をいただきました。それがこの道に入るきっかけになったと思います。

その頃、NHKの民謡コンクールでのど自慢がありました。私の師匠である井上一子さんが18歳で日本一をとった時期です。その歌に魅せられて、近所のおばさんの勧めで矢巾町民

謡保存会に入ったのち、高校1年生から30歳になるまで師匠に学びました。民謡が大ブームだった頃です。「私もいつか日本一になりたい」と思っていたのですが、「到底叶えられるものではない」と次第に感じるようになりました。チャレンジすることを諦めないで平成3年、第14回日本民謡大賞をいただきました。岩手県代表になって4回目。38歳の頃、子どもが3人もいました。農協に勤めていて、我が家は農家でしたので、お稽古と仕事、子育てや主婦をしながらの授賞でした。私は婿取りなので、父も母も「もう辞めたほうがいい。子どもが思春期に入ってお母さんの影響でおかしな道に入ったら困る」と言っていたのですが、「これが最後だから」と出場しました。

岩手山に護られて授賞した 民謡日本一と南部馬方節

日本武道館で47都道府県からプロ・アマを問わず、代表1名が参加して2日間にわたる大会が行われました。この大会の結果によってはデビューの道が開けるというものでした。私が4回目の出場で思ったことは「日本一はいらない」。私が生まれた岩手には素晴らしい民謡がある。私の声に合った歌『南部馬方節』を選び、

15年も歌いこなしましたが、これでよしというのではなく、いつも何か足りないと思いながらお稽古してきました。馬産地の岩手には馬にちなんだ歌がたくさんありますが、「南部馬方節は男性が歌う歌」ということにひっかかりを感じていました。ところが、あるパーティの席で90歳になるおばあさんが「夕べ生まれた栗毛の馬」と、大変素晴らしい歌詞を歌ったことを知り、歌詞の意味を聞いたところ、「南部曲り家で馬を育てて、何とも可愛い馬が生まれた。それを歌った歌詞だ」と知って、男性の歌だとかだわる必要がないことに気づきました。そのおばあちゃんに聞いた歌詞によって「女性が歌ってもいい。この歌は家族が馬を思って歌ったものだ」と思いました。

もうひとつ、足りないものは何か、考えたところ、イメージトレーニングが足りないと思いました。私の時代、農家は高度成長期で、馬を飼っていた頃のことは幼いときのことしか、わからない。民謡は昔の生活様式がわからないと意味がわからない部分もあるのですが、私もその世代に入っていたので、イメージトレーニングを行いました。私が歌った歌詞は「南部片富士 裾野の原は 西も東も馬ばかり」という歌詞です。これは普通、2番で歌われます。岩手を象徴する歌詞を歌いたいと思ったので、この歌詞を武道館で歌おうと思いました。岩手山に行き、そのイメージを体で感じなければいけない。岩手山に行ったとき、岩手山に雲がかかっていた、茜色がとてもきれいでした。奉納するつもりで2回、南部馬方節を歌ったところ、雲がパッと抜けていきました。茜色に映える岩手山は雄大な深緑の姿を私たちにみせてくれました。「これだ、これを胸に秘めて歌うしかない」と思い、また2回歌を歌ったのち、東京に向かいました。

予選会は西日本と東日本に分かれ、それぞれ5人が選ばれます。翌日の夜7時からの生放送になりますが、それまで結果は知らされません。

放送前に勢揃いしたとき、結果が発表されるのです。私は東日本で5番目に呼ばれました。そこでまた、5人で歌います。これで2回目の予選です。そのとき、東日本優秀賞で私の名前を呼ばれてドキンとしましたが、ビックリして涙も出ませんでした。涙声になってしまうと、半日は声が戻りません。そして歌い始めたのち、5人が選ばれ、その後1人が選ばれる。決戦で西と東の代表が1人ずつ選ばれて歌います。決戦は長い階段を降りて、東日本代表の私から歌うことになりました。鈴が入り、尺八が入って歌い始めました。

♪ ハ～ハア、南部片富士 ハ～ハアハア～
裾野はあよお ハ～ハア 西も ハ～ハア
ハア～ 東も ハア馬ばあかありい ♪

この歌を歌ったとき、お客様は2万人。47都道府県の応援合戦があり、審査員は7名。私は何も感じることなく、何も目に入りませんでした。岩手山に護られたのだと思います。本当に無我無心になれました。最高の場所で最高の歌を歌い、最高の賞をいただきました。もう二度と経験することはないと思います。こんなに嬉しいことはありません。

あれから21年が経ちました。岩手に生まれて南部馬方節を日本武道館で歌い、日本一になったことは、宝くじに当たったことよりもスゴいことだと思っています。その後、いろいろなかたちで皆さんに声をかけてもらい、岩手の民謡を披露しています。キングレコードに所属してから25年経ちますが、お蔭さまで私も岩手（南部）の民謡を45曲、吹き込ませていただきました。今はCDの時代ということで、2枚のCDにまとめて40曲を収録しましたが、「60曲まで岩手の民謡を吹き込んだら、私の仕事は一段落かな」と思っています。先輩が残してくれたように、後世に伝えたいと思っています。

次代に民謡を伝え、 被災地を民謡で励ます

昨年3月11日の被災後、歌うことをちょっと控えさせていただきました。「もう二度と歌うことはないのかもしれない」とも思っていました。民謡は先人が残してくれた大切な文化だと思っています。郷土芸能と同じく、民謡も次世代に繋いでいかなければならない音楽だと思っています。牛追い歌・馬方節は、10人が歌えば10人が違う。それが歌謡曲とは違うところ。そういうところが「民謡の良さではないかなあ」と思います。後世にきちんとした歌い方を伝えていくのも、私たちの仕事かと思っています。余興やお酒の席で歌うことも勉強のひとつではありますが、秋祭りシーズンには神様に奉納させていただきながら、各神社で芸を披露させていただいています。私も教室を始めさせていただいてから、すいぶん時間が経ちますが、今は5歳から92歳までの幅広い年代が集まっています。「世代間交流ができて本当にいいなあ」と思っています。また、踊りの教室も開いています。子どもたちが全国大会で個人優勝できるまでになりました。お稽古してきたことがひとつの結果になると、励みになります。そうした結果の陰には、親御さんのご協力があります。

今は被災地にも足を運ばせてもらっています。そうしたことは控えようとも思ったのですが、被災した方々の中には矢巾町に移り住み、「漆原さんに会えて良かった。また歌っことが聴きたいなあ」とおっしゃる方もいて、それを聞いたことで「また歌わなければならないなあ」と思いました。今年1月から釜石に入らせてもらい、仮設住宅にお住まいの方々を集落ごと老人福祉センターに集まってもらいました。座敷で膝を交えて、元気が出る話や私の歌と三味線をミックスして1時間半、「話っこすっぺし」

というタイトルの催しを行っています。社会福祉協議会の企画です。仮設住宅は隣に住む人が誰だか、わからないそうですから、この催しときは集落ごとに集まるそうです。催しに参加する人たちの「久しぶりだったね、元気だったか?」という声から始まります。元気が出るお話をしてくれるのは、花巻市にお住まいのウィルビー（志村尚一さん）です。志村さんは「日本列島は、背骨のような山脈があり、そこから流れる水が両側に流れている。その水が里を潤し、海に入って海のものをつくる。だから日本は、里と海が交流しなければならない。同じ岩手県の中で、花巻と釜石が交流したっていいのではないか。そのためには、釜石に住んでいる皆さんの協力が必要だ。盛岡・花巻・紫波などのみんなと交流すればいい。そうやってみんなと交流していこう。私たちが受け付けた風土を大事にしないで復興は絶対がない。皆さんが大事だ。だから、困っていることを声に出して言わなくてはならない。みんなで声を出していこう」というお話をしたのち、私の歌を交えた催しです。釜石では、すでに20回行いました。隣の大槌にも声が響き、昨日は大槌に10回目の訪問をしたところで、今度の日曜日には山田町に行く予定です。大きなステージもいっぱいありますが、私は皆さん一人ひとりのお顔を拝見できる距離感が大好きです。これからも、こうした催しを続けて参りたいと思っています。ささやかですが、「私の声と民謡で一人でも多くの方が和んで安らいで、温かい気持ちになって、また明日から何かのかたちで前に進む気持ちになってくれたら嬉しいな」と思いながら、志村さんといっしょに被災地に通わせてもらえたらと思っています。

例会報告

第10回例会
平成24年9月14日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
 ・司会 藤村文昭会長
 ・ソング 我等の生業
 ・四つのテスト斉唱
 ・ゲスト 漆原栄美子様(民謡歌手)。
 ・会長報告 藤村文昭会長
 ・功労者お知らせ マルチプル
 フェーロー 藤村文昭会長
 ・幹事報告 佐藤重昭幹事

【ニコニコBOX】

- ◆佐藤義正君…今月の19日に大観で将棋の王座戦の対局があります。八年前には竜王戦の対局があり、その時のタイトル保持者は谷川さんで、挑戦者は渡辺さんでした。今回のタイトル保持者は渡辺さんで、挑戦者は羽生さんです。とても楽しみな対局です。
 ◆近藤 駿君…先週、山岸会員から貴重な卓話を頂きました。部屋に飾って眺めています。朝のこない夜は無い、夜明け前が一番暗い。確かによく解ります。でもまだ真っ暗です。いつ朝は来るので

しょうか？それとも朝は来ないで終わってしまうのでしょうか？いずれあの18項目がすべてわかっていたら、お袋や女房にこんなに虐げられなくてよかったのにと後悔しています。我が家も家訓の候補になる卓話でした。

- メークアップ
 盛岡北R.C.=大見山君。盛岡南R.C.=熊谷(祐)君。盛岡東R.C.=菊池・佐藤(義)君。盛岡中央R.C.=星・市丸君。クラブ委員会R.C.=伴・千葉・平井・勝部・桑田・民部田・大山・米内君。



出席報告 ■ 会員数 /62 名 ■ 出席数 /33 名 ■ 出席率 /60.00% ■ 前々回修正出席率 /87.3%

プログラムの
お知らせ

- ・ 9月21日(金) ゲスト卓話 前田千香子様(焙茶工房しゃおしゃん主宰)
「気仙茶の再生に向けて」
- 28日(金) ゲスト卓話 細川克也氏(岩手日報社 報道部次長)
「ロンドン五輪取材して」
- ・ 10月 5日(金) 新入会員卓話 大見山俊雄会員
- 12日(金) 第2回クラブアッセンブリー
- 19日(金) 新入会員卓話 岡村 弥会員
「食品の安全性についての一考察」

- 本号編集担当 / 加藤 正幸
- 次号編集担当 / 福田 荘介